

2021年9月16日

公益財団法人 日本人事試験研究センター
代表理事 千葉 恭裕

警察官採用試験（6月27日実施）の教養試験における正答位置表の記載ミスについて

本年6月27日に静岡県、鳥取県、愛媛県で実施した警察官採用試験において、当センターのご提供した教養試験問題集（五肢択一、マークシート式）の正答位置表に記載ミスがあり、そのため採点に誤りが生じたことが判明いたしました。

この教養試験問題集は50題で構成され、当センターからお送りした正答位置表によりご利用いただいた県にそれぞれ採点いただいているものですが、この正答位置表に記載された正答位置のうち英語の問題2題の正答位置が誤っておりました。そのため、正しい正答位置で採点を行った受験者の正答数は、最大2題変動することになります。

このミスは、実施結果のデータをご提供いただき、今後の問題の品質向上のための分析を行った際に判明いたしました。

ご利用いただいた3県には、お詫びとともにミスの内容をご説明させていただきました。

採用試験においてこのような重大なミスはあってはならないものであり、受験者の皆様、3県の関係者の皆様に多大なご迷惑とご負担をおかけいたしましたことを、深くお詫び申し上げます。今後は、このようなミスが生じないように、内部での厳格な点検や早期に事後の検証が行われるように万全を尽くして参ります。

(添付資料)

別紙 記載ミス発見の経緯と今後の防止策について

資料 正答位置を誤って記載した問題

お問い合わせ先

〒160-0001

東京都新宿区片町4-3 曙橋 SHK ビル7階

TEL: 03-5363-9901

公益財団法人 日本人事試験研究センター

研究開発本部 渡辺・山崎

記載ミス発見の経緯と今後の防止策について

(記載ミスを発見した経緯)

当センターでご提供している試験問題については、その後の問題の品質向上のため、試験問題をご利用いただいた団体に試験実施結果のデータをご提供いただき、受験者の解答状況（選択肢の選択動向）の分析を行っております。

当該試験におきましても、実施データをご提供いただき、9月10日に当センターで解答状況の分析を行いました。その結果、50題中の英語2題については、正答率が際立って低く、受験者の解答状況も不自然であったことから、正答位置を再確認したところ、2題とも誤った正答位置が正答位置表に記載されていることが判明いたしました。

また、この2題以外の48題については、正答位置に誤りのないことを確認いたしました。

(ミスの原因と今後の防止策)

このミスの原因は、英語の2題につき、使用する問題を変更した際、当センターの担当者が正答位置の修正を正答位置表に反映させないまま校了し、その正答位置表の誤りを発見できないまま、ご利用団体に送付したことにあります。

このようなミスが二度と生じないようにするため、問題変更の際の確認を複数の点検者が行うことを明確にするとともに、問題作成からご利用団体に問題をご送付するまでの各段階での点検を厳格に行うようにいたします。

また、当センターが試験問題集をご提供し、採点も行っている試験については、当センターで採点后直ちに解答状況の分析を行い、不自然な解答状況がないかを確認しております。本件のようにご利用団体で採点を行う試験についても、受験者の解答データを直後にご提供いただき、当センターで直ちに解答状況の分析を行い、仮にご提供した問題に不備があった場合でも試験実施後に速やかにその旨をご連絡できるようにいたします。

本件の記載ミスは、当方の不注意により生じたミスであり、深く反省いたしております。この反省を強く銘記し今後はこのようなミスが生じないよう、内部での厳格な点検や早期に事後の検証を行い、再発を防止するために万全を期して参ります。

正答位置を誤って記載した問題

[No.] 次の文の内容に合致するのはどれか。

When I was a student of engineering I came to fear the responsibility that I imagined might befall me after graduation. How, I wondered, could I ever be perfectly sure that something I might design would not break or collapse and kill a number of people? I knew my understanding of my textbooks was less than total, my homework was seldom without some sort of error, and my grades were not straight As*. This disturbed me for some time, and I wondered why my classmates, both the A and C students, were not annoyed by the same phobia*. The topic never came to the surface of our conversations, however, and I avoided confronting the issue by going to graduate school instead of taking an engineering job right away.

*straight As : 全ての科目がA (優秀) であること

*phobia : 恐怖症

- お知らせした正答位置→ 1. 学生の間では、エンジニアになるには大学の学部レベルの知識では不十分であることが認識されていたが、そのことがふだんの会話で話題に上ることはなかった。
2. 大学の学部を出た後、ほとんどの学生が大学院に進学することになっていたのに、私は明確な目的意識を持つこともなく、大学院への進学を決めてしまった。
3. 大学の学部の授業では、多数の人命を犠牲にするような重大な設計ミスについて、実例に即して議論を展開するようなことはほとんどなかった。
4. 大学の学部で習う授業の内容は、大学院とは違って、エンジニアの実務とは直接関係のないことばかりではないかという疑問が、常に私に付きまとっていた。
- 本来の正答位置→ 5. 大学の学部レベルの知識すら十分に備えていない状態でエンジニアになるということに対して、とても不安を感じていた私は、大学院に進学することにした。

正答位置を誤って記載した問題

[No.] 次の文の要旨として最も妥当なのはどれか。

Nobody can please everyone. If you try to do so you will find friendship as lasting as bubbles blown into the air. The people whom you should be friends with will find you in good time. And you will find them.

Sometimes teenagers try to become popular and make friendships by opening their innermost thoughts to people they have just met. Such friendships are not likely to last.

What's the good of hurrying to make friends? An ordinary nice person will have made only a few really close friends before his or her life comes to an end.

お知らせした正答位置→ 1. 親友を作ることは大事であるが、交友関係を広げることも同じくらい大切である。

- 本来の正答位置→ 2. 親友と呼べる友人は、生涯に何人も得られるものではなく、自ずとできるものであり、急いで作ろうとしても意味がない。
3. 自分から積極的に胸の内を開くことによって友人関係は深まるのであり、相手が胸の内を開くのを待つべきではない。
4. 若い間はよい友達を作ろうとえり好みする傾向があり、結果として、生涯に多くの親友を持ってないことがよくある。
5. 若者の間では、人を喜ばせることによって真の友情が生まれると誤解している者が多いが、そこからは親友は得られない。